

Electronic Police Siren Kit WPA100

100
Watts



WPA100



The Electronic 100 watts Police Siren Kit

ブラック・ボックスの設置位置	3
コントロール・ボックスの設置位置	4
配線作業開始の準備	5
コントロール・ボックス側の配線確認と結線	6
コネクタの結線と組み立て	7
ブラック・ボックス側の配線確認と結線について	8
コントロール・ボックスからの9本を結線する	9
結線完成イメージ図	10
サイレンの機能テストと動作確認	12
スピーカー装置と搭載について	14
仕様関係 / Dimension and Specifications	16



WPA100
Black Box

ブラック・ボックス設置位置の決定

ブラック・ボックスは「防滴仕様」となっておりますが、完全防水を意味するものではありません。損傷防止のため高温・多湿となる場所及び走行時の風圧・振動を強く受ける場所への設置は出来るだけ避けてください。水分を含んだ風圧は「防滴仕様」であっても水分の浸入を防ぎきれません、ご注意ください。

ブラック・ボックスの固定にはボルト・ナット類及び設置場所によってはタッピング・スクリーを使用する事も予想されます。車輛本体の配線類にダメージを与える事が無い様に設置場所の選択・決定は十分な配慮を持って行って下さい。

ブラックボックスを固定する、その裏側は大丈夫ですか？
主要な配線類をいためるような事はないでしょうか？ 車載収納ケース、ラジオボックスあるいはサドル・バックの中で、日常点検が容易な場所である事が必要です。

コントロールボックスの設置位置の決定



Control Box

コントロール・ボックスは防滴仕様となっておりますが、風圧による水の浸入までは防ぎ切れません、直接風圧が掛るような場所への設置は避けてください。ステアリング装置操作環境下のコクピット内で、走行中の緊急操作に支障のない位置を選択して下さい。

コントロールボックスの固定には、ハンドルバー・マウントブラケットの用意がありません、有効にご利用ください。



Noiseless
Microphone

高性能ノイズレス・マイクロホンは脱着可能式となっております。差込ソケット部分はグリスアップ後固定してください。

取り外しが出来るということは、盗難に遭遇すると言う可能性に繋がります、十分にご注意ください。

配線作業開始の準備

配線を始める前に必ず下記の通りスイッチのポジションをご確認ください。これは取り付け作業中に予期しない装置の作動開始によって起きる作業者及びその近隣での事故を予防するためにも必要です。



不注意な取り扱い
は聴力障害を引き
起こします。

左下に位置するサイレンのレバースイッチはニュートラル、即ち水平位置を保持しているかを確認してください。サイレンのレバースイッチは【SIREN】、【SIREN / LIGHT】共にスイッチは【ON】の状態となりますので必ず水平位置で【OFF】となっていることを確認してください。

ロータリースイッチのインジケーターは真下の【OFF】の位置を指している事を確認してください。

コントロールボックス右上の小さなダイヤルスイッチはパブリックアドレス用のボリュームスイッチです。左回転で最後までいっぱい戻して下さい、この位置はボリュームカットでマイクロホンからの入力は音声として発生しません。

以上で装置を動作させない設定は完了します。

コントロールボックス側の配線確認と結線

コントロール・ボックスから出ている配線は、黒色キャプタイヤーコード（9本）とは別に単独の【**黒白ライン**】が一本あります。この【**黒白ライン**】はサイレン・レバースイッチが【**SIREN / LIGHT**】側に倒れている【**ON**】の状態です。プラスの電流が流れます。

この【**SIREN / LIGHT**】ポジションでは、サイレンを作動し、同時に別途装備として搭載したライト関係も作動させる必要がある場合に、このラインを有効にご使用ください。サイレンとパシュートライト等をスイッチ一つで同時に作動開始させる事などが出来ます。

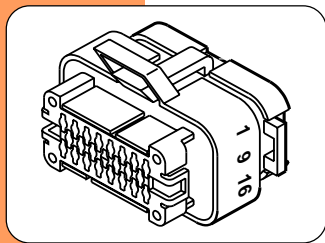
註）このラインの許容値は最大で： 12Volt/250mA です。

レバースイッチが下向きに倒れて【**SIREN**】ポジションにある【**ON**】の状態では、【**黒白ライン**】との関連はなくなります。したがって上記のライト関係は結線してあっても作動せずサイレン装置のみ作動します。この【**黒白ライン**】配線は拡張機能用として用意されたもので、必ずしも使用しなければならぬものではありません。取り敢えず使用する必要のない場合は本車側とショートしないように処置し格納してください。

コネクターの完成

基本的コントロールに必要なキャプタイヤコード関係の9本を使用してセットに付属の専用コネクタを完成させ、これらをブラックボックスに結線します。

一見して、これら9本のコート先端はコネクターのオス()ピンの様に見えますが、先端が開いていますので実際は、ブラックボックス側がオスでコントロールボックス側9本のピンがメス()という事になります。

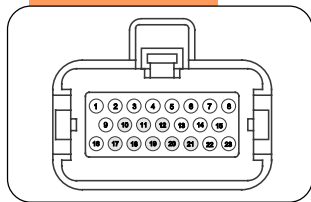


コネクターの結線を完成させないで製品を供給する理由は、収納ケースあるいはサドルバックに対して出来るだけ小さな穴あけ作業で済むように配慮したものです。キャプタイヤコードが通るような穴とブラックボックス側から電源部分に接続の為、外部に引き出す配線に必要な穴あけ作業を完了してハーネスを完了してください。

10 11 12 17 18 19 20 21 は使用しません。

ブラックボックス側の配線確認と結線について

コネクターのピンボックスは合計 23 個（**①**—**②③**番まで）ありますが、下記の通りすでに準備されている 6 本があり、その他は空きになっておりません。 万一形状が違う場合はご連絡ください。（Tel.: 03-3726-4321）



- ①** = オレンジ（橙）
- ②** = レッド（赤）太いラインでフューズボックス付。
- ④** = ブラック（黒）
- ⑧** = ブルー（青）
- ⑮** = ブルー（青）
- ⑰** = ブラウン（茶色）

不要配線の処理確認：

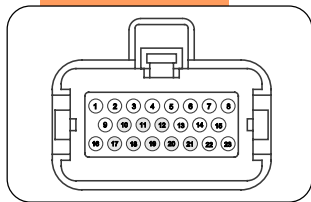
コントロールボックスから単独で出る【**黒白ライン**】をパシュート・ライト等同時作動に使用しない場合はショートしないように処置することもお忘れしないで下さい。

コントロールボックスからの9本は次の通り完成します。

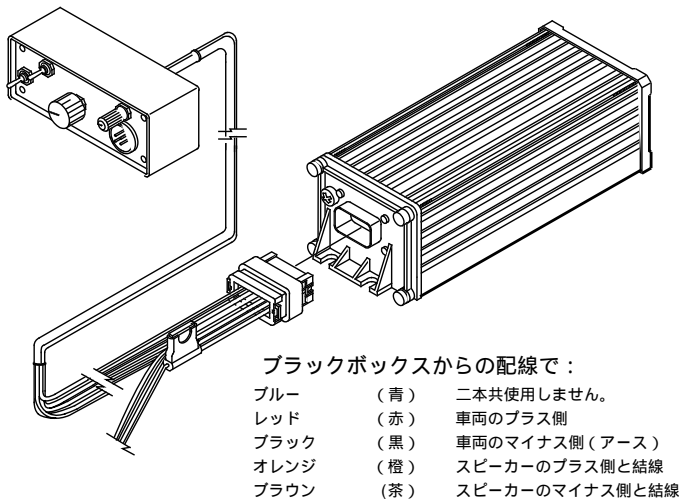
- ③ = ホワイト (白)
- ⑤ = ホワイト / ブラック (白 / 黒)
- ⑥ = グレイ (灰色)
- ⑦ = オレンジ (橙)
- ⑨ = グリーン (緑)
- ⑬ = ブラウン (茶)
- ⑭ = イエロー (黄)
- ⑳ = バイオレット (紫)
- ㉓ = ブルー (青)

⑩ ⑪ ⑫ ⑰ ⑱ ㉒ ㉔ は使用しません。

コネクタ結線の状況確認は、コネクタのオレンジ色部分を取り外すことでより確実な確認が出来ます。オレンジ部分は両サイドの黒いベロを押し下げフックの詰めを解除し取り外します。



結線完成イメージ図



サイレンの機能テストと動作確認

作動テストに入る前にスピーカーの音量を最低に絞ります。更にスピーカーそのものをウエスや座布団等を利用して消音に勤めてください。

VOI 【Volume Knob】

パブリックアドレス音量調節ツマミ」です。マイクロホンのテスト開始までは、反時計回転方向いっぱいに絞っておいてください。下の **PA** 【Public Address】のテストでマイクロフォンの音量調整適正位置を設定します。

【SIREN】・【SIREN / LIGHT】サイレン始動と同時に指定のライト関係を作動させるようにしている場合は、【SIREN / LIGHT】側へ、サイレンのみ単独でコントロールするように回路設計した場合は【SIREN】側へレバースイッチで選択して、コントロールスイッチからシステム全体機能に対するスイッチを ON にします。

RAD 【Radio Rebroadcast】

この位置は、別に搭載されている無線装置で受・発信する音声が付



属のスピーカーを通して同時再生するためのポジションです。詳しくは無線機の取り扱い説明書をご覧ください。使用出来るスピーカーは本セット(WPA100)で供給されるスピーカーのように、アンプ装置の組み込みの無いスピーカーのみ使用できます。この位置ではサイレンは作動しません。
 註) 配線の項で 青(ブルー)を二本共使用しないとしました、これらが【Radio Rebroadcast】用のラインです。

PA 【Public Address】

搭載のマイクロホンを使用した、口頭指令を行う位置です。ボリュームは上記の音量調整ツマミを使います。スピーカー・スイッチを握ると【ON】です、この状態でマイクロフォンからの音声はスピーカーから流れます。ボリュームスイッチは時計方向に回転させながら通常の使用に最適な音量位置を選択してそのままにしておいてください。

MAN 【Manual Siren】

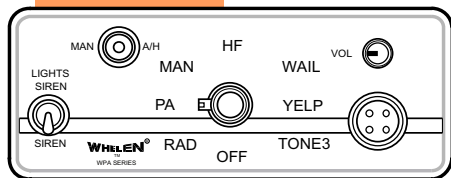
ロータリースイッチがこの位置にあるときは、左上にあるレバースイッチを【MAN】側に押している間サイレン音を発生させることが出来ます。このレバースイッチは常にニュートラルに自動復帰します。



HF 【Hand Free】

別名サイクルサウンドと呼ばれる機能ですが、あまり一般的では有りません。四輪パトロールカーでは特殊な追加配線を施し通常のホーン操作と同様のアクション、運転しながら<ハンドル持ったままでクラクションを鳴らす>ことは安全上全く問題ありませんから、この動作でサイレンの音色を次々と切り替えていく機能です。

モーターサイクルでは、コントロールボックスでダイヤルスイッチがこの位置にある時、左上のレバースイッチを【MAN】側に倒すことでサイレンの音色を順次変更することが出来、アクションは Wail Yelp Piercer 再び Wail へ戻る を繰り返します。このステージで作動中のサイレンを停止させるには、ダブル・クイック動作 = 【MAN】側へ2回素早く押す事で停止します。



WAIL 【Wail Tone】

ウエイル音色、比較的長い高低音を繰り返します。

YELP 【Yelp Tone】

イエल्प音色、短い高低音を繰り返します。

TONE 3 【Piercer Tone】

緊急走行中に、通行車両・人通りの多い交差点などを通過するときに Weil、Yelp の代わりに使用する音色です。

ロータリースイッチが【RAD】、【PA】、【MAN】、【HF】、【WEIL】、【YELP】、【TONE 3】のいずれのポジションで使用中でも、左上のレバースイッチを右【AH】側に倒すことでエアーホーン音色が発生します。このレバースイッチは自動的にニュートラルに戻ります。

【PA】 マイクロフォンでの口頭指令は、マイクロフォン・グリップスイッチで作動します。ロータリースイッチがどのポジションにあってもマイクロフォンでの口頭指令が優先されます。 具体的に、【WEIL】、【YELP】、【TONE 3】のどの位置でサイレン音が発生している時でもマイクロフォンを取り上げグリップスイッチを握った時点でサイレン音は停止、ボイスイン出来ます。 放せば元のサイレン音発生状態に戻ります。

通常は【WEIL】、【YELP】のどちらかを選択しておいて、 左下のサイレンのレバースイッチでON-OFFします。勿論この回路を車両側のボタンあるいはレバースイッチに回路接続してもかまいません。

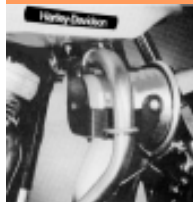


スピーカー装置と搭載について

スピーカーは写真左のようにL型のマウントブラケットつきで供給されます。WPA100型からドレイン装置が付加されました。専用のHarley Davidson 純正バンパーマウントブラケットはパーツ番号HDSBでご指定ください。



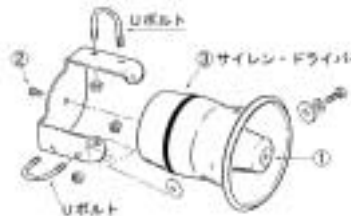
HDSB parts Kit
Harley Davidson



HDSBはバンパーに搭載するための専用備品セットです。(右図)

取り付けに必要な加工はこちらで済ませて納品させていただきます。

Uボルト2本で完全な搭載が完了し、左右どちらでも大丈夫です。



バンパーマウントではドレイン孔の位置確認を行ってください。

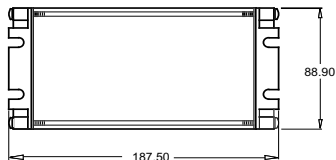
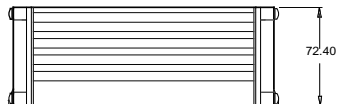
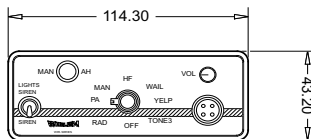
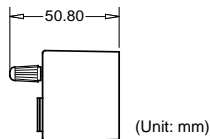
Uボルトでのスピーカー装置の固定が終わったら；

のスピーカーチップをしっかりと握り左側へ回して緩める、この状態でのボルトを緩めると、サイレンドライバーが回転できます。下から見てドレイン孔が真下に来るように調整して固定確認をしてください。

Dimension and Specifications

Control Box: 0.5kg

Black Box: 1.32kg



WHELEN
Engineering Company Inc.

仕様は断り無く変更することがあります。

ご不明の点は下記宛にお問い合わせ下さい。

145-0062 東京都大田区北千束3-35-2

株式会社 ミニオン・インコーポレイティド

Tel. 03-3726-4321 Fax. 03-3726-4324